

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな	ゆう)ぱっくはんまいむこうぼう			団体ウェブサイトURL
制作団体名	(有)PAC汎マイム工房			http://www.hanmime.com
代表者職・氏名	取締役 荒井範昭			
制作団体所在地	〒 173-0037	最寄り駅(バス停)	副都心線「小竹向原」駅	
	東京都板橋区小茂根4-3-4-201			
電話番号	03-6905-8908			
ふりがな	くるくるしるく			団体ウェブサイトURL
公演団体名	くるくるシルク			http://crucru.net
代表者職・氏名	代表 立川真也			
公演団体所在地	〒 179-0084	最寄り駅(バス停)	有楽町線「氷川台」駅	
	東京都練馬区氷川台3-38-6-1103			
制作団体 設立年月	1985年 9月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	荒井範昭		制作事務2名 劇団員4名準劇団員3名研修生: 面接試験準劇団員:2年研修後、劇団員:4年活動後。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	長壁明美	
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	大久保克則	
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@hanmime.com			

制作団体沿革	<p>1982年(有)汎マイム工房として池袋に劇団設立。劇団公演及び研修生発表会。あらい汎は、TV番組TBSの「ワンツージャンプ」フジTVの「ひらけポンキッキ」にレギュラー出演。この年、あらい汎、イタリア、マイムフェスティバルにて「マイムドラマ「男のヴァレード」でマイムソリスト賞受賞。1983年黙劇「待合室」でグランプリに輝く。 1986年営業事務所(有)PACを設立。 1989年練馬区の転形劇場のT2スタジオをスタジオPACと改名引き受ける。 1990年養成所はアメリカのリングリングサーカス主催のクラウンカレッジ、イン、ジャパンと合併。パントマイムとクラウンの養成所として拡充。鑑賞団体「おやこ劇場」に参加、年間75ステージなどを実施。小中高校公演、海外公演。イタリア、フランス、ギリシャ、ブルガリア、ポーランドなど。ユーゴセルビアの孤児難民施設慰問公演。あらい汎、大学、劇団養成所、専門学校指導。 文化庁海外派遣事業にこれまで5名が採用され現在も活動中 2013年8月、2社合併 板橋に事務所を移転。文化庁事業、巡回公演、派遣事業に参加。児童館、小学校、中学校、高校公演。地域の催事にも参加、養成機関歴45年。パントマイムの普及にも力を注いでいる。</p>			
学校等における公演実績	<p>2012年 「道化師芝居」16回 ピエロ・マイム・ファンタジー8回 2013年 ピエロ・マイム・ファンタジー8回 「道化師芝居」 2回 「アートサーカスくるくるシルク」5回 2014年 「道化師芝居」8回 ピエロ・マイム・ファンタジー23回 「アートサーカスくるくるシルク」7回 2015年 ピエロ・マイム・ファンタジー9回 「アートサーカスくるくるシルク」6回 2016年 ピエロ・マイム・ファンタジー15回 「アートサーカスくるくるシルク」5回 2017年 ピエロ・マイム・ファンタジー17回 「道化師芝居」3回 (除:文化庁巡回公演) 「アートサーカスくるくるシルク」8回 2018年 あらい汎ソロマイム2回 ピエロ・マイム・ファンタジー回 道化師芝居2回 「アートサーカスくるくるシルク」6回 2019年 あらい汎ソロマイム3回 ピエロ・マイム・ファンタジー4回 道化師芝居2回 (除:文化庁巡回公演) 「アートサーカスくるくるシルク」3回 2020年 あらい汎ソロ4回 2021年 道化師芝居3回 ピエロ・マイム・ファンタジー3回 あらい汎ソロ4回(除:文化庁) 2022年 あらい汎ソロ8回 道化師芝居1回 ピエロ・マイム・ファンタジー4回 2022年 「アートサーカスくるくるシルク」8回</p>			
特別支援学校等における公演実績	<p>神奈川県清川ホーム(2006年～2011年年変わり作品変更) 平川病院(2006年～2013年により作品変更で上演) 2014北茨城特 別支援学校 長崎県大村支援学校、富山県立しらとり支援学校、京都府、 2015年広島庄原特別支援学校 島根出雲養護学校 東京都立川ろう学校 2016年徳島聴覚支援学校 阪神特別支援学校 久留米聴覚支援学校 横須賀市立ろう学校 宮城県立聴覚支援学校小牛田校 2019年東京シューレ中学校</p>			
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有		
	※公開資料有の場合URL	http://www.hanmime.com		
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:		
		PW:		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 くるくるシルク】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	アートサーカスパフォーマンス「くるくるシルク」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>アートサーカスパフォーマンス「くるくるシルク」</p> <p>1. タップダンスでご挨拶～パントマイム人形振り(ロボット)</p> <p>2. 帽子ジャグリングのダンス</p> <p>3. ボールジャグリング</p> <p>4. サーカスパフォーマンス(ジャグリングアラカルト)</p> <p>5. パントマイムチャレンジコーナー 全員でのパントマイム体操～パントマイムチャレンジ(代表orその場選出)</p> <p>6. ビッグフラッグ</p> <p>7. フィナーレ(ピコピコハンマー飛ばし&ロングロー輪車など)</p> <p>演出あらい汎/構成・振付 立川真也</p> <p style="text-align: right;">公演時間 60～70 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	内部保有
演目概要	<p>サーカスの本場フランス生まれたでヌーボシルクを意識して作られた現代サーカス劇。演劇、ダンス、サーカスをミックスさせて作られたくるくるシルクのオリジナルサーカス芸である。セリフ等はほとんど使わず、ダンス、曲芸、3名の芝居をサーカスのようにナンバーとして構成された作品。幕開けは3人の男達が日常の生活用品を使ってタップダンスをしてサーカスの幕が開ける。オープニングダンスとして、3人のハット(帽子)ジャグリングを使ったダンス。3人の身体から生まれる卵(ボール)が3人のジャグリングとなりボールを使ったくるくるシルク曲芸が始まる。途中ボールが大きくなるサプライズで、大きなボールに翻弄されるくるくるオリジナルジャグリング。サーカスをイメージさせた演目がそれぞれの得意技で続く、洗濯だらいを曲馬に思わせるたらい回し、ジャグリングとパントマイムをミックスさせた動物曲芸、2人の足長男の友情ドラマとサーカスナンバーが続く。生徒達の体験としてパントマイムのアイソレーションを使ったパントマイム体操とパントマイム芸のチャレンジ。肉体の見せ方の不思議と身体と道具を使った演目を体験する。客席の頭上を虹色のビッグフラッグが舞いやがてサーカスはフィナーレを向かえていく。</p>			
演目選択理由	<p>サーカス芸は、日常の中で生まれ子供の頃の遊びが本気になり、プロフェッショナルとして曲芸になるまで表現された芸術です。靴を踏み鳴らして生まれたタップダンス、様々な物や道具を複数投げて操って生まれたジャグリング、帽子の格好良い被り方から生まれたハットジャグリング、ペンキ屋さんが高い場所を塗るときに使われた足長など、日常の中から生まれた演目が沢山あります。それは様々な表現の可能性と創造性、芸として完成度を上げるためのチャレンジ精神を感じることが出来る演目です。複数で完成させる芸は、お互いのコミュニケーションと協力性高め、そこで生まれる失敗と成功がストーリーや物語とはまた違ったドラマを感じることが出来ると思います。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>ワークショップでは、2つのことを行います。一つは様々なサーカス道具を体験して、複数の物を操る難しさやコツを掴むために練習がいかに大切なのかを体験してもらいます。その上で本番にプロが見せる技がいかに訓練して完成されたのかを感じて頂きます。もう一つは、自分の身体を知って、その身体をコントロールするためにパントマイムのアイソレーションを体験しそれを踏まえたパントマイムの簡単な演目にチャレンジして頂きます。</p>			
出演者	くるくるシルク3名:立川真也、藤居克文、高橋徹			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 3 名 スタッフ: 2 名 合計: 5 名	運搬	積載量: 1 t 車長: 4.99 m 台数: 1 台	

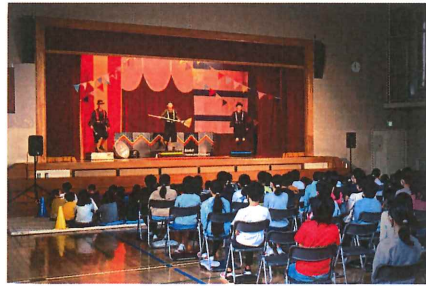
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		2時間	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時30分	8時30分～12時	13時30分	0	15時	16時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

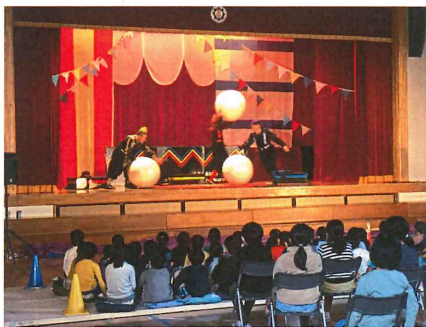
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	5日	0日	10日	15日	
	11月	12月	1月	計	75日	
	15日	10日	10日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	30～50
		鑑賞人数目安	400



◎箏、台所のボール、洗濯ダライを使ったタップダンスの会話とリズムダンス。



◎大きなストレッチボールを使ったジャグリング。



◎サーカスの猛獣使いの曲芸を、台所用品を身に付けて動物に扮したくるくるシルクと猛獣使い。



◎客席の頭上を二人が操るビッグフラッグが舞います。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 くるくるシルク 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	30～50人
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>物を操る身体と自分で操る身体を体験して表現者の意識の違いを体感します。</p> <p>1. 自分で操る身体・・・パントマイムの基本のアイソレーションを使った動きで、自分で意識的に動かせる身体を細かく分析する。動かせる身体、動かせづらい身体の状態を知る。自分の身体を意識的に動かすことで身体の表現を探る。 お互いの体の動きを見て、言葉以外のコミュニケーションを感じる。</p> <p>2. 物を操る身体・・・サーカスの基本でもあるジャグリング芸を体験して物を操る時の意識の違いを感じる。 ・色々なジャグリングの種類を実際体験して、操る物が違った時の意識の違いを見つける。 上手くなるコツを掴む。(ボールジャグリング、皿回しなど) ・3つのボールジャグリングを体験して複数の物を操る時の意識を探る。なぜうまくいかないのか、どうやったら上手いくのか、普段意識しない自分の状態を知る。</p> <p>自分の身体を操り、物を操る事で自分のイメージする表現や芸を完成するための目標とそれに向かうための練習と計画を練る。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>普段意識していない身体の動きや部位を知り、それが表現を生み出す身体のコミュニケーションとなることを感じて頂きます。本番の公演を観てさらにそれが具体的にどう表現されたのかをそれぞれで感じ取ってもらいたと思います。 サーカスで行われる芸が練習によって誰でも出来ることを知り、公演ではさらにオリジナルな表現としてどう表現されたのかを実際見て感じて頂く。 チャレンジ精神を持って自分の可能性を感じる。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等			

本事業への申請理由

【公演団体名

くるくるシルク

】

①本事業に対する取り組み姿勢

サーカスの本場フランスでは、伝統サーカスの衰退から国立サーカス学校を設立し、若者が新しく表現していく新しい感性のサーカスがヌーボシルク(新しいサーカス)として新たな文化芸術として誕生しました。それは世界中の若者や芸術家に響き広がりました。くるくるシルクもそんなヌーボシルクに感化されて誕生しました。そしてくるくるシルクのオリジナルな芸を生み出しました。

サーカスはもともと生活の中で生まれた遊びの発展が芸として芸術文化として形となっています。授業で行われる勉強以外の遊びの発展が、芸として表現として文化芸術として世界には実際に沢山あることを感じてもらいたいと思っております。

誰でも突き詰めればプロフェッショナルになれば、そのためには自分の身体や意識を具体的に感じる事も大切であり、そのためには沢山の練習をしたり、自分や互いを観察しなければいけないという事や、自分の目標達成のために自分にとって何が必要なのかを自分で考えるということや、ワークショップや公演を観て少しでも感じて貰えればと思っています。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

実施希望校には、ワークショップ内容の確認と、上演内容のパンフレット及び劇団紹介のパンフレットをお渡しします。実施日程は、こちらの希望日程の概略を送付し希望をお聞きしながら調整してゆきます。日程決定と共に細かい内容と、ワークショップでの必要備品リスト(机、音響機材など)の確認書、スケジュール表を送付し確認します。大方の日程を調整して、送り返して電話で調整に入ります。短い日程で、効率よく、丁寧な対応を心がけております。

本番に関しても上演可能日程表を作り絶対無理だという日を記入してもらい、全体からの返答で上演予定日表を送り、調整に入ります。

ワークショップ実施日にもいろいろと検討出来ますが、事前にお問い合わせ事項、注意事項をお送りし疑問な点を出しておいてもらい、ワークショップ実施の日に摺合せをしたいと思っています。

本番当日は、出演児童との舞台稽古もありますのでワークショップの日にその段取り、タイムテーブルを話し合いたいと思っています。本番当日は生徒指導のキャストを1人追加させて頂きました。

なるべく早めに情報交換をして、確認を取りながら進めたいと思っています。

協力してもらいながら、負担をかけないというのが私どもの姿勢です。

私どもは、この企画を社会に知らせるために、事前にその地域のTV局、新聞社、などマスコミに知らせて取材をお願いしております。学校には、その旨ご理解いただき、これまでも快く協力いただいております。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫